

NHK
ウィークリー
ステラ

特別編集版

〈花子とアン〉紀行
山梨県甲府市

表紙／〈花子とアン〉吉高由里子 撮影／川口俊介

連続テレビ小説

花子とアン



NHKウィークリーステラ
毎週水曜日発売
4/4号より

連続テレビ小説

花子とアン

『赤毛のアン』の 翻訳者・村岡花子の

想

像力豊かでおしゃべり好きな少女・アンが孤児院からある老兄妹のもとにひきこられ、さまざまな騒動を起こしつつ、やがてすてきな女性へと成長していく姿を描く小説『赤毛のアン』。カナダ人作家のL・M・モンゴメリー作のこの小説を初めて日本語に翻訳した女性・村岡花子が、連続テレビ小説《花子とアン》のヒロインだ。時は明治時代、山梨・甲府の

貧しい農家に生まれた安東はな（吉高由里子、子ども時代は山田望叶）は、父・吉平（伊原剛志）の強い要望で10歳で東京の修和女学校へ入る。修和の生徒たちは良家の子女ばかりで、言葉遣いから立ち居振る舞いまで、すべてがザ・お嬢様！ 甲州弁丸出し、「ナイフとフォークなんて使ったことねえだよ！」な田舎者のはなは、ただただ戸惑い、挙句には脱走まで試みる。

夢とロマンと 愛に満ちた半生を描く



Power to Dream



Love for Family



Youngdays



だがそこで、はなに自らの道を決める大きな出会いが……。そう、「英語」との出会いだ。未知なる言葉の意味が明らかになる瞬間のときめき、それらが積み重なって物語として迫ってきたときの高揚感。幼いころから空想が大好きだったはなは、すっかり英語に魅せられ意欲的に勉強に励むようになる。

生

涯の友・葉山蓮子（仲間由紀恵）との出会い、村岡英治（鈴木亮平）との情熱的

な恋愛。アンと同じような輝か

しい青春時代を経たはなは、やがて翻訳家として自立し、自らが信じる物語の力を日本中に届けようと決心するが、その道は平たんではなかった――。

はなが『赤毛のアン』と出会い、自らの言葉で再生させるまでにいかなるドラマが待ち受けているのか？ 翻訳家・村岡花子の半生をもとに描く、夢とロマンと愛に満ちあふれた（花子とアン）。

「ごきげんよう」の挨拶とともに、明るい朝がやって来る！

Friendship



〈花子とアン〉の見どころやあらすじは、「NHKウィークリー ステラ」（毎週水曜 書店にて発売）で詳しく紹介しています。

撮影／川口俊介、山本玄 文／後藤友美

主な登場人物

本が好き！空想が好き！
明治生まれのドリーミングガール！

安東家の人々

しかめっ面の
不器用兄やん



安東吉太郎
賀来賢人

はなの1つ上の兄。家族思いで優しいが、不器用であるがゆえに度々父と衝突する。

おかあもの器
富士山クラス



安東ふじ
室井滋

はなの母。小作農家の長女。自由奔放な夫を優しく見守り、生来の明るさで家庭を支える。

自由奔放！
放浪おとう



安東吉平
伊原剛志

はなの父。静岡生まれ。行商で甲府に訪れた際ふじに出会い、結婚した。夢追い人。

あんどう
安東はな

(のちの村岡花子)

吉高由里子

子ども時代 / 山田望叶

明治26(1893)年、山梨・甲府の貧しい小作農家に生まれる。想像力豊かで空想が大好き。10歳のとき、父の勧めで東京のミッション系女学校に編入。卒業後は故郷で教師になるが、その間に書いた本が出版されたことがきっかけで、東京の出版社で働き始める。やがて翻訳家・児童文学者の道を歩む。

ヒ

ロ

イ

ン

エ

オ

カ

キ

ク

ケ

コ

サ

シ

ス

セ

ソ

タ

チ

ツ

テ

ト

ナ

ニ

ノ

ハ

ヘ

ホ

フ

ブ

パ

ピ

ポ

プ

ク

ケ

コ

サ

シ

ス

セ

ソ

タ

チ

ツ

テ

ト

ナ

ニ

ノ

ハ

ヘ

ホ

フ

ブ

パ

ピ

ポ

プ

ク

ケ

コ

サ

シ

ス

セ

ソ

タ

チ

ツ

テ

ト

ナ

ニ

ノ

ハ

ヘ

ホ

フ

ブ

パ

ピ

ポ

プ

ク

ケ

コ

サ

シ

ス

セ

ソ

タ

チ

ツ

テ

ト

ナ

ニ

ノ

ハ

ヘ

ホ

フ

ブ

パ

ピ

ポ

プ

ク

ケ

コ

サ

シ

ス

セ

ソ

タ

チ

ツ

テ

ト

ナ

ニ

ノ

ハ

ヘ

ホ

フ

ブ

パ

ピ

ポ

プ

ク

ケ

コ

サ

シ

ス

セ

ソ

タ

チ

ツ

テ

ト

ナ

ニ

ノ

ハ

ヘ

ホ

フ

ブ

パ

ピ

ポ

プ

ク

ケ

コ

サ

シ

ス

セ

ソ

タ

チ

ツ

テ

ト

ナ

ニ

ノ

ハ

ヘ

ホ

フ

ブ

パ

ピ

ポ

プ

ク

ケ

コ

サ

シ

ス

セ

ソ

タ

チ

ツ

テ

ト

ナ

ニ

ノ

ハ

ヘ

ホ

フ

ブ

パ

ピ

ポ

プ

ク

ケ

コ

サ

シ

ス

セ

ソ

タ

チ

ツ

テ

ト

ナ

ニ

ノ

ハ

ヘ

ホ

フ

ブ

パ

ピ

ポ

プ

ク

ケ

コ

サ

シ

ス

セ

ソ

タ

チ

ツ

テ

ト

ナ

ニ

ノ

ハ

ヘ

ホ

フ

ブ

パ

ピ

ポ

プ

ク

ケ

コ

サ

シ

ス

セ

ソ

タ

チ

ツ

テ

ト

ナ

ニ

ノ

ハ

ヘ

ホ

フ

ブ

パ

ピ

ポ

プ

ク

ケ

花子とアン
ふるさと
紀行

村岡花子ゆかりの地を訪れる
富士と歴史に抱かれて
甲府



花子が幼児洗礼を受けた甲府教会は、現在甲府駅近くに位置。礼拝堂の恵みの座(ひざまずいて祈るための木製ベンチ)は、花子の時代から使用されている。



東日本最大の木造建築物である甲斐善光寺は、1500年代に建立されたもの。



武田信虎・信玄・勝頼の武田氏3代の館跡に位置する武田神社。

春からの連続テレビ小説「花子とアン」の主人公である小説「赤毛のアン」の翻訳者・村岡花子(旧姓「安中、本名「はな」)は、1893(明治26)年に父・逸平と母・てつの長女として山梨県甲府市に生まれた。熱心なクリスチャンであった逸平の希望で、花子自身も2歳で幼児洗礼を受けている。後に子どもたちのための児童文学や翻訳小説を数多く世に送り出すことになる花子。その起点は、キリスト教との出会いだっただけではな

幼き村岡花子が故郷で見たものとは

いか——。山梨ゆかりの作家たちを研究し続けている山梨県立文学館の学芸員・高室有子さんは言う。「江戸時代、山梨は幕府の直轄地で、甲州街道や駿州往還などを通じてさまざまな物資や人が行き交い、学問・文化を吸収し発信していました。明治に入っても英米の文化への関心が高まり、明治時代にはいち早くキリスト教の宣教師たちが招かれたそうです。花子が幼いころから甲府は信仰に触れやすい環境だったのです」

現在も、甲府の町にはさまざまな宗派のキリスト教会が存在



山梨の文学風土を紹介する山梨県立文学館。山梨ゆかりの文学者として、花子ゆかりの品々が展示されている。



学芸員の高室有子さん。



花子が5年間教鞭をとった山梨英和女学校(現・山梨英和中学・高等学校)。寄宿舎で生活していた花子は、生徒たちに物語を語って聞かせていたそう。

1300年のぶどうの歴史とともに

山梨でもう一つ忘れてはならないものが、ぶどう。〈花子とアン〉の中でも、ぶどうにまつわるエピソードが登場するほど、地元の人々にとっては欠かせない存在だ。日本一の収穫量を誇るぶどうの産地・勝沼。7月下旬〜11月上旬に訪れると、見渡す限りぶどう畑が広がり、圧巻の眺めだ。唯一の日本固有のぶどう品種・甲州種で造られた甲州ワインは、その繊細さから世界的に注目されている。実は、このぶどうにも長い長い歴史があったことを勝沼に位置するワイナリー・勝沼醸造の有賀弘和さんの話で知った。

「日本のぶどうには、実はおよそ1300年近い歴史があるんです。718年、僧・行基が仏教とともにぶどうを薬用として伝えたというのが、有力な説です。ここ勝沼が、日本一のぶどう産地となったのは訳が

する。その一方で甲府には、戦国時代の武将・武田信玄の功績もあり、町全体がまるで博物館とさえ感じられるほど、実に多くの歴史的建造物や貴重な文化財が残されている。甲府は、多彩な文化に触れることができる町なのだ。

この彩り あなたへ届け

連続テレビ小説

「花子とアン」の舞台

山梨県甲府市

甲府市観光課（「花子とアン」推進委員会事務局）
400-8585 山梨県甲府市丸の内 1-18-1
TEL: 055-237-5702/ FAX: 055-227-8065

花子とアン推進委員会

検索

1000mの天空リゾート



やまなし ほくとし
山梨 北杜市

ほくと魅力発信中！
北杜 フォトギャラリー

夢と感動のテーマシティにらさき



新府桃源郷

旅人たちの
交流の舞台
『にらさき』
季節が交差する
花街道をゆく。



わに塚のサクラ

韮崎市観光協会
☎0551-22-1991
<http://www.nirasaki-kankou.jp/>

やまなし県政だより

ふれあい

春

vol.40

特別編集号



🌱 やまなし発展の芽

富士の国やまなし フィルム・コミッション

NHK連続テレビ小説「花子とアン」
ヒロイン・安東はな(村岡花子)役

吉高 由里子さん

Yuriko Yoshitaka

● やまなし発展の芽 富士の国やまなしフィルム・コミッション

主人公の故郷 山梨でクラシックイン

NHK連続テレビ小説

「花子とアン」



県では「富士の国やまなしフィルム・コミッション」を設置し、映画やテレビドラマなど、さまざまな映像作品の撮影の誘致・協力に取り組んでいます。

そしてこの春、山梨県を舞台としたNHK連続テレビ小説「花子とアン」が始まります。このドラマは、本県出身の翻訳家・村岡花子の波瀾万丈の半生記です。今回は、ヒロイン・花子を演じる吉高由里子さんに、花子への思いやロケで訪れた山梨の印象などを伺いました。

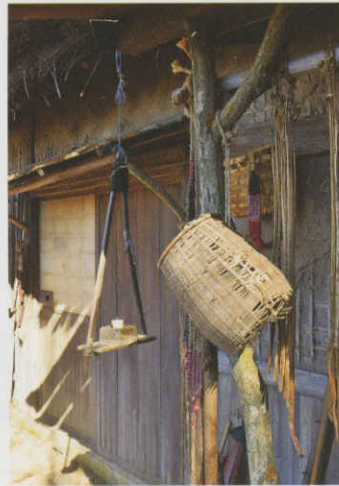
ヒロイン・安東はな(村岡花子)役

吉高 由里子(よしたか・ゆりこ)さん

1988年7月22日、東京生まれ。2004年デビュー。2006年「紀子の食卓」で第28回ヨコハマ映画祭・最優秀新人賞、2008年には「蛇にピアス」で第32回日本アカデミー賞・新人俳優賞など、数々の賞を受賞。数多くの映画やテレビドラマに出演し、幅広い役柄を演じている。昨年は映画「横道世之介」でお嬢様育ちのヒロインを、ドラマ「ガリレオ」で強気な新人刑事を演じ、際立った存在感を発揮した。



甲府市内に造られた花子の実家



夢見る少女が 夢を送り届ける女性へと 成長していく半生記

「村岡花子は『赤毛のアン』の主人公・アンと、どこか似たところがある人だったのではないか。故郷・甲府の風景や寄宿舎での生活など、自分の少女時代や育った環境を思い浮かべながら『赤毛のアン』の翻訳をしたのではないか。『花子とアン』の構想は、そんな仮説からスタートしました」と、チーフ・プロデューサーの加賀田透さんは言います。

ドラマでは、小作の娘として生まれ育つ

実在した人物を演じて 感じることは

た花子が、10歳の時に東京のお嬢様学校に飛び込み、困難にぶつかりながらも、力強く成長していく姿が描かれます。華族のお嬢様たちとの駆け引きや、花子が頭の中で思い描く妄想など、朝からおなかを抱えて笑えるようなシーンもたくさん出てきて、見た人が元気になる作品です。

この役を演じて数カ月がたった吉高さんは、花子はけなげで、意志が強くて、きちんと認めることができる女性だと言えます。「絶対に言い訳しないし、何事にも

逃げないで果敢にぶつかっていく。私はどちらかというところすぐに逃げたい方なので、そういう姿勢には正されることが多いです」。その一方で「家族のことをとても誇りに思っていて、それが花子の力になっている。そこは私も同じなので、すごく共感します」と、花子への思いを語ってくれました。

また、実在した人物を演じるプレッシャーは、想像以上のようです。「登場人物としてじゃなく、村岡花子自身を好きという人もいます。お孫さんの恵理さん(ドラマ原案『アン』のゆりかご)村岡花子の生涯』作者 村岡恵理さん)が時々タジオに顔を見せてくださるので、お話を伺ったりしていると、どんなに花子さんを大事に思っているか伝わってきます。だから、そういう人の思いを大切にしなくちゃいけないって」。村岡花子という一人の女性がいて、その人が亡くなった後も、その人の書いた物が次の世代、その次の世代に受け継がれている。今は、そういったことを意識しながら演じているそうです。

また、明治・大正・昭和という激動の時代を丁寧に描いていることも、このドラマの見どころの一つ。「ろうそくの灯の下でこ



飯を食べるシーンがあったんですけど、そういう時代の人たちが力強く生きて残してきた物を、風化させずに残そうとする現代の人、未来の人……。時代をつけていくというか、運んでいくということを考えてるようにもなりました」

平成26年度前期 連続テレビ小説

花子とアン

2014年3月31日(月)～9月27日(土)全156回放送予定
NHK総合(月～土)午前8:00～8:15ほか

山梨の貧しい農家に生まれ、東京の女学校で英語を学び、故郷での教師生活を経て翻訳家となるヒロイン花子。震災や戦争を乗り越え、子どもたちに夢と希望を送り届ける人へと成長していく彼女の、明治・大正・昭和にわたる波瀾万丈の半生記。



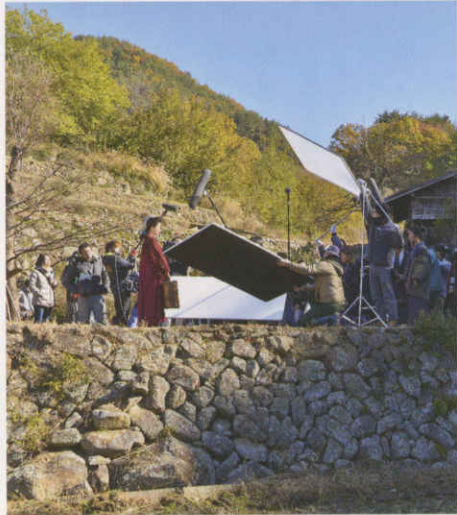
作品への愛情が どんどん膨らんだ 甲府でのロケ

吉高さんの甲府ロケは、昨年11月に始まりました。山あいのロケ地には、家が造られ、田んぼが耕されて、実際に人が住んでいるかのような世界が創られています。「山がすぐそばにあつてすごいなあと思ったり、高い建物がそんなに無いせいか空がすごく近くに感じられたり…、行き帰り

の中央道からは、富士山もきれいに見えました。撮影中、地元の方からワインの差し入れを頂いたんですけど、赤も白もすごくすすりしていて飲みやすく、おいしかったです」

甲府ロケでは、花子の家族とのシーンが撮影されました。おじい役の石橋蓮司さんと、おかあ役の室井滋さんが、本番以外でも本当の親子のような、とてもいい雰囲気だったり、「このおかあだったらこの場面はこんなふうにするんじゃないかな」と、室井さんと、おとう役の伊原剛志さんが相談しながら決めたりしている姿などを目の当たりにしたという吉高さん。「ああ、この人たちと一緒にできてうれしくて心から思えて、この作品に対する愛情がどんどん膨らんでいきました」

そして、避けて通れないのが甲州弁。方言指導の先生に教わっても、なかなか難しいようで、「奥が深いですね。何でも語尾に



山がすぐそばにあつて
すごいなあ
空がすごく近くに感じます。



「ズラをつければいいわけじゃないって、やっと分かってきました(笑)」。吉高さんも、共演者の皆さんも、苦労されているようです。

**たくさんの方の気持ちも
大切にしながら
精いっぱい頑張ります**

クランクインから数カ月、吉高さんは原案の作者である恵理さんをはじめ、共演者の方々、スタッフの皆さん…、いろいろな人が良い作品にしようという気持ちを強く持つて臨んでいる姿に気付き、そのたびにとてもうれしく思っているそうです。「これ、絶対いい物になる。愛される作品になるわ」と感じながら、日々演じていると言います。そんな吉高さんをはじめ、多くの人の

熱意が込められた作品の中で、この春から山梨の美しい風景が全国に届けられていくこととなるでしょう。

「朝ドラは長丁場。9月まで撮影は続きますが、一生に一度しか演じられない朝ドラのヒロイン。精いっぱい頑張ります。山梨の皆さんも期待しててください」

花子を育てた山梨に住む私たちも「花子とアン」を応援し盛り上げていきたいと思います。



—日本に夢と希望を伝えた翻訳家—

村岡花子



山梨英和女学校での教師時代の村岡花子
(提供:赤毛のアン記念館・村岡花子文庫)



花子が翻訳した「赤毛のアン」
(1952年5月 三笠書房)初版本
(山梨県立文学館寄託)

村岡花子(本名:はな)は、1893(明治26)年、甲府市に生まれた。小学校入学前に東京に転居し、10歳の時東洋英和女学校に進学。このころにカナダ人宣教師から英語や西洋の生活習慣を学び、数多くの英米の文学に原書で親しんだことが、後に作家・翻訳家として活動していくための礎となった。同女学校を卒業後、1914(大正3)年、故郷・甲府の山梨英和女学校に赴任し、英語教師として教壇に立つ傍

ら、作品集を出版したり、少女向けの物語や童話を雑誌に投稿したりした。後に、花子はこの教師時代を「青春」と呼んでいる。その後、東京に戻って編集者となり、結婚。文筆家としての活動を始めた。英米文学の深い教養を生かして童話の執筆や翻訳を行っていた花子はやがてルーシー・モード・モンゴメリの名作『ANNE OF GREEN GABLES』と出会う。友人のカナダ人宣教師か

ら贈られたこの本を、太平洋戦争の最中にあっても翻訳を続け、1952(昭和27)年、『赤毛のアン』として初めて日本に紹介した。そこには、人々に愛情を注ぎながら成長していく主人公・アンの姿が、軟らかな文章で生き生きと表現され、多くの日本人に夢と希望を与えた。花子は、執筆や翻訳の他にも、ラジオの子供向けニュース番組に出演したり、恋や友情、さまざまな思いを、たくさんさんの短歌に託して表現したりと、幅広い活動を展開。75歳で亡くなるまで、数多くの作品を残した。そして『赤毛のアン』は、刊行から60年以上を経た今日もなお、多くの人に読まれ、愛され続けている。



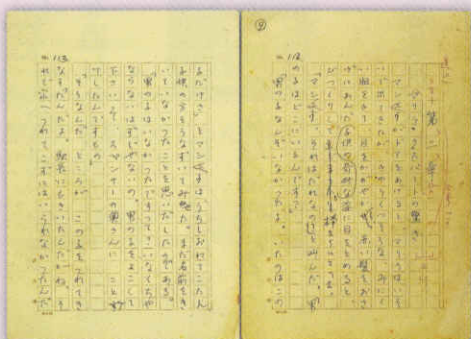
赤毛のアン記念館・村岡花子文庫(東京・大森)に再現されている花子の仕事机 PHOTO:©K.HORIUCHI
(提供:赤毛のアン記念館・村岡花子文庫)

4月12日から県立文学館で開催

企画展 村岡花子展 ことばの虹を架ける～山梨からアンの世界へ

直筆の「赤毛のアン」翻訳原稿や、日本で初めて刊行された『赤毛のアン』初版本の他、花子の書簡や写真、短歌ノート、愛用の品などを展示。村岡花子の、波乱に満ちた生涯と文学の原点を探ってみませんか。

展示室の一角には、アンの部屋を再現しています。



村岡花子「赤毛のアン」翻訳原稿(山梨県立文学館寄託)



■開催期間 4月12日(土)～6月29日(日)
■観覧料 一般 600円/大学生 400円
※各種割引などあり。詳しくはお問い合わせください。

【県立文学館】甲府市貢川1-5-35
TEL 055-235-8080 FAX 055-226-9032



©『麦子さんと』製作委員会

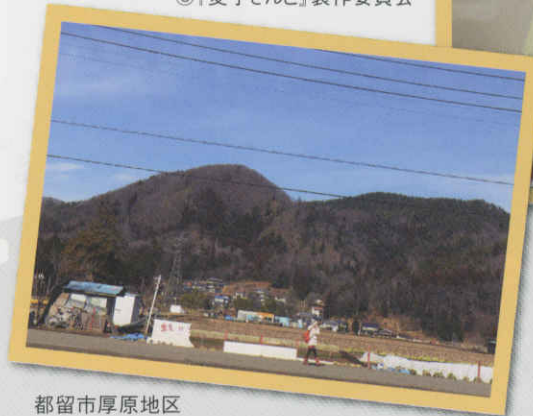


都留市内のボーリング場

麦子さんと
2013年公開映画
監督:吉田恵輔



都留市城南公園



都留市厚原地区



山梨県立図書館

**太陽の
坐る場所**
2014年秋
公開予定映画
監督:矢崎仁司



富士川町立増穂中学校

「映像」でやまなしの魅力を発信！

映画やテレビドラマ、CM、旅番組など映像作品の撮影を誘致し、ロケ地の情報提供や必要な手続きの調整など、撮影に関する二元的な窓口を担う公的機関をフィルム・コミッションといいます。

県でも「富士の国やまなしフィルム・コミッション」を平成16年度から設置し、映像を通じた山梨の魅力発信に取り組んでいます。

首都圏からのアクセスの良さや、日本一の日照時間、山々や森林、清流といった表情豊かな景観などの好条件をPRし、これまで、さまざまな作品の撮影を誘致してきました。

今後も、映像制作者に積極的な情報提供を行うとともに、ロケの現場をサポートすることによって、「富士山やフルーツ、ワインといった「やまなしブランド」を国内外に発信していきます。



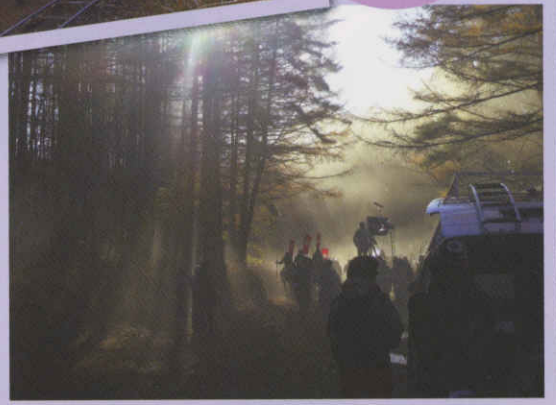
「やまなしブランド」の数々



最近の県内



NHK
2014年大河ドラマ
軍師官兵衛



甲府市内



NHK
2014年度前期
連続テレビ小説
花子とアン



全て北杜市内



甲斐市内

撮影のため、交通規制などが行われる際には、ご協力をお願いいたします。



県内の豊富なロケーションや、実際に撮影が行われた場所、撮影された番組の放送情報などを紹介しています!

やまなしフィルム

応募いただいた方および企業・団体は、データベースとして登録し、必要に応じて制作会社からの依頼内容をご連絡します。
応募は富士の国やまなしフィルム・コミッションホームページから。

作品づくりに参加しませんか?
エキストラ募集!
撮影協力企業・団体募集!
(各種レンタル業者、美術関係、仕出し関係、宿泊関係、飲食店、演劇団体、撮影に協力可能なビル・住宅・工場などの物件ほか)



問い合わせ先
富士の国やまなしフィルム・コミッション事務局(観光企画・ブランド推進課内)
TEL 055-223-8878 FAX 055-223-1574

山梨散策

山梨県は、東京圏に隣接しながら、富士山、南アルプスをはじめとする自然景観や、鮮やかに移り変わる四季、さらに豊かな山々と森の息吹に生まれた清らかで良質な水を有する「水と緑の宝庫」です。

また、ブドウ、モモ、スモモに代表される豊かな果物、温泉やワイン、武田信玄公ゆかりの史跡や文化財など、素晴らしい観光資源に恵まれています。

最近ではNHKの連続テレビ小説「花子とアン」をはじめ、数々の映画やテレビ番組のロケ地として選ばれるなど、注目されています。



武田菱丸
（富士の国やまなし観光キャラ(C)博長）

山梨の観光案内は、ほくまかせてマル!



新府桃源郷と南アルプス



身延山久遠寺としだれ桜



山中湖に映る逆さ富士

富士の国やまなしフィルム・コミッション

富士の国やまなしフィルム・コミッションでは、映画やテレビドラマのロケの誘致及び支援を行い、映像を通じて情報発信やイメージアップに力を入れています。

2013年には、NHK連続テレビ小説「花子とアン」のロケも行われました。



「花子とアン」甲州市内でのロケ風景

問い合わせ先

- 観光全般に関すること、やまなしブランド戦略の推進
フィルム・コミッションに関すること
観光企画・ブランド推進課 TEL 055-223-3776
- 誘客の促進、広域観光の振興、移住・交流の推進に関すること
観光振興課 TEL 055-223-1557
- 国際（インバウンド）観光の振興に関すること
国際交流課 TEL 055-223-1620
- 富士山・山岳の環境保全、エコツーリズムの推進に関すること
観光資源課 TEL 055-223-1576
- 県内観光地や着地型観光に関すること
（公社）やまなし観光推進機構 TEL 055-231-2722

やまなし観光ネット 検索

東京・日本橋にある山梨県の情報発信拠点

「富士の国やまなし館」 「レストラン Y-wine(わいわい)

「富士の国やまなし館」は、山梨県を代表する県産品の展示販売をはじめ、観光やレジャーなどの情報発信拠点です。2階の「レストラン Y-wine」では、山梨県の食材、ワイン、地ビールなど山梨の食を堪能することができます。

所在地 〒103-0027 東京都中央区日本橋2-3-4 日本橋プラザビル1F・2F
富士の国やまなし館 TEL 03-3241-3776
Y-wine (わいわい) TEL 03-3527-9185

やまなし館

検索

アクセス
JR東京駅八重洲北口から徒歩4分
東京メトロ銀座線・東西線「日本橋駅」B3出口徒歩2分

